新 聞 毎 H

インターネットと連動した 【滋賀生活情報紙】

この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています

智力子片 www.gaido.jp

vol.306・2月18日号 毎週木曜発行 4面にプレゼント情報!

●**Oh!Me**編集室/株式会社ヤマプラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927

●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603

●発行/毎日新聞大阪本社開発宣伝部:大阪市北区梅田3-4-5

発行部数:100,000部



パナマの飾り布モラに魅せられて、

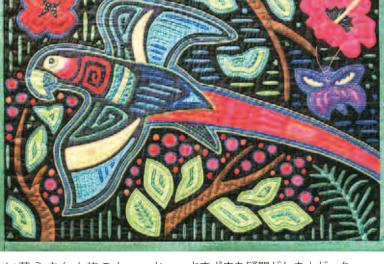
コレクションや創作活動を45年以上 続けている刺しゅう作家・中山富美 子さん。活動の集大成ともいえる 「モラに魅かれて一中山富美子の 作品展」が、しが県民芸術創造館で 20日から3月7日まで開催される。

強烈な色彩感覚のとりこに

全身を電気のようなものが貫いた。見 たこともない強烈な色彩感覚とイグア ナやケモノなどを題材にした独特のモ チーフ。「何なんだこれは!」

40年前、ファッションデザイナーを していた中山さんは、友人のデザイナー が持ち込んだ資料で初めてモラを見 たときの衝撃を、今でもはっきりと 覚えている。

モラとは中南米パナマ共和国に近い島々



に暮らすクナ族の女 性のブラウスに縫い 込まれる飾り布のこと。 何枚もの原色の布を 重ねて切り抜き、 逆アップリケの技

> 法で作られている。 資料で見たとき は、それがモ ラだとは分から なかったが、約

1年後、世界の民俗学につ いて書かれた本でその存在を見つけ、 夢中で調べた。知れば知るほどモラに ほれ込み、以後研究や創作活動を重ね るようになった。

創作の原動力は 現地の人々との触れ合い

活動を進めるうち、現地の人たちはどん な気持ちで作っているのか、何を食べて 暮らしているのか、伝統をどう守ってい るか、なぜこのような模様が生まれるの

か……さまざまな疑問がわき上がった。

「ぜひとも現地に行きたい!」。だが、 当時は社会情勢が悪く、念願のパナマ 行きが実現したのはモラを知って10 年以上たってからだった。

パナマでは現地の人々にステッチを教 えたりしながら一緒に生活した。水道 も電気もガスもない原始的な生活だが、 彼らの一生懸命生きる姿は中山さんの 心をわしづかみにした。以来現在まで 実に18回も現地に赴いている。実際 に行くことで創作意欲がわき、活動の 大きな原動力になっている。



展覧会のほかモラ教室も

中山さんは刺しゅう、キルト、ビー ズステッチなど幅広い手芸分野の作 家として活躍しながら、モラをはじ め世界のさまざまな民俗刺しゅうの 研究とコレクションを続けている。 NHK婦人百科などテレビ番組にも 出演。NHKおしゃれ工房手芸フェ スティバル展をはじめ数多くの展覧 会に参加しているほか、1965(昭和40) 年からは毎年作品展も開催。全国に 330のモラ教室も展開している。

故郷滋賀では、08(平成20)年11月に 石山寺で「中山富美子のMOLAでつ づる源氏物語展」を開催。中南米と日 本の文化が融合した新鮮なデザインの モラが大好評だった。

しが県民芸術創造館の「モラに魅かれ て一中山富美子の作品展」では、クナ 族のモラ約30点と中山さんの創作モ ラ約120点のほか、現地での中山さん の活躍ぶりを伝える写真も展示する。

「モラの色彩の鮮やかさ、テクニック の不思議さを感じてください」

(取材・鋒山) 詳しくは www.gaido.jp/3061





組10人 ご招待!



